

業種 コーヒー・軽食等の製作・販売
所在地 横浜市金沢区泥亀2-14-5
 (金沢地区センター1階)
従業員数 8名
 (店長1名/サポート店員4名
 障害者店員3名)

ふれあいショップ「マーブル」は、金沢区の金沢地区センターの中にある軽食・喫茶のお店です。「ふれあいショップ」というと「福祉就労の場」という印象が強いかもかもしれませんが、ここマーブルはすべての従業員を一般就労として雇用しています。

石川さんはここで、ドリンクの製造、ウェイター、レジ等、お店のほとんどの業務をこなして働いています。

県アビリンピックで金メダル

石川さんは、もともとウェイターの仕事に興味があり、本郷特別支援学校在学時の体験実習も、中区にあるふれあいショップで行ったそうです。その後卒業して、みごとにここマーブルで、憧れだったウェイターの仕事に就くことになりました。しかし石川さんはそれでは飽きたらず、自らの意志で、平成19年度神奈川県アビリンピック喫茶部門に出場、みごと金メダルを獲得したそうです。

今は、10月に開催予定の全国大会に向けて闘志を燃やしているとのことです。

マーブルでの社員育成

マーブルで、石川さんを含む3名の知的障害者と一緒に働く店長の奥村紀子さんは、障害のある方とともに働くことについて、「一緒に働いていると、時にはこちらがとまどうこともあります。でも壁を作るのは良くない。コミュニケーションが一番大切です」と言います。また、働く上での指導については、「地道に指導していくことが大切だと思います。1度できたことでも、何回も言います。しつこいくらい同じことを言うと、必ずきちんと覚えてくれます」と言います。



レジで接客をする石川さん

働くことによって成長

今回の取材の中では石川さんご本人から、アビリンピックに出た理由、仕事の心構え、将来の夢など、いろいろなお話を伺いました。どのお話もきちんとした受け答えで、全くと言っていいほど障害を感じさせませんでした。仕事の動きも非常に機敏で、まさに「好青年」といった印象を受けます。しかし、石川さんが在籍していた本郷特別支援学校は、障害程度が重い児童生徒が多く、一般就労している卒業生は少数となっています。

今回の取材に同行し、久しぶりに石川さんと再会した本郷特別支援学校の進路担当の教諭は言います。

「まじめで優秀な生徒でしたが、学生時代は人と笑顔で話すのが難しかったり、体力面の弱さがあったりと、社会的にきちんと自立できるだろうか？という不安はありました。でも、今日久しぶりに彼を見て、『よくぞここまで成長してくれた！』と、誇らしげな気持ちになりました」。

* * * * *

社会の中で働き、自分の役割や居場所を見つけ、周囲から必要とされて生活していくことが、人の成長にとって大切であるということは、障害があってもなくても、きっと同じことだと思います。

石川さんは、社会に出てここマーブルでウェイターという居場所を見つけて、大きく成長していったのではないのでしょうか。

療育手帳上の障害程度は、障害の「重い」、「軽い」を判断するための一つの材料にはなるかもしれませんが、必ずしも人の成長の可能性を判断する材料とはならないのかもしれませんが。



金沢地区センター内「マーブル」の外観



アビリンピックの金メダルを手にする石川さん

Office 13

(株) 本牧館

いしぐろ みどり
石黒 緑さん

平成18年度 本郷特別支援学校卒業

業種 パン製造・販売

所在地 横浜市中区本牧間門19-28

従業員数 約70名(2店舗計)

障害者雇用状況

知的障害者4名/肢体不自由1名(本店)

本牧館は、本牧通りの広い通り沿いにあるパン屋さんです。店内は広く明るく、車でわざわざ買いに来るお客さんも大勢いて、活気にあふれています。

石黒さんはこのお店の調理場で、主に各調理器具の洗浄やパンの袋詰め補助等の仕事をしています。

本牧館の障害者雇用

本牧館は、規模的には障害者を雇用する法的義務はありませんが、20年以上前から障害のある方を随時採用し、現在は本店で4名の知的障害者と1名の身体障害者を雇用しています。

しかしこのお店では、「障害者を雇用している」という意識は全くと言っていいほどありません。実際、ごく最近まで、企業が障害者を雇用することによって得られる助成金さえ、受け取っていなかったそうです。

『障害があろうとなかろうと得意なことを伸ばしていく』というのが、このお店のスタイルのようです。

社長の青木光太郎さんは言います。「入社以来20年になるベテランの知的障害者の従業員がいますが、今当店では、彼の腕がないとドーナツは焼けないんです」。



本牧館の外観



手際よく調理器具の洗浄をする石黒さん

職場での石黒さん

石黒さんはなかなかの人気者で、男性の従業員やお客さんから、声をかけられたりデートに誘われたりすることもたびたびあるそうです。本人に感想を聞くと、「そういうのは引いちゃいますね」と今ふうの若者らしい返事が返ってきます。

しかし一方仕事では、周囲の人に非常に気を使う控え目な面があるようです。そして自分のことを、「プレッシャーに弱い」、「緊張するとすぐにテンパって、言葉遣いが変になってしまう」と、マイナス評価をします。

将来の夢は、「人が元気になるような、笑顔が出るようなパンを作りたい」ということだそうです。それはあくまでも「趣味」としてであり、商売としてお客さんに売ることについては、「無理ですよ」と顔を横に振ります。

社長の青木さんは、「今の仕事はもう自分の力でできるようになったので、今後は店舗に立ってもらっても考えていますが、本人はいまひとつ自信がないようです」と言います。それでも青木さんは無理強いはいしません。本人の意思を尊重し、ゆっくり育てていくのが、本牧館のスタイルのようです。

いつか自分で…

石黒さんのお母さんは、平成19年に亡くなりました。お通夜には、日頃から家族のように接している従業員の方たちが、みんな来てくれたそうです。

悲しいできごとではありましたが、石黒さんは、いつも変わらず、毎朝早く起きて自分で食事の支度をしてから出勤しているそうです。そして周囲のやさしさに接し、笑顔でいる時間もどんどん増えてきたそうです。

しっかり者で誰からも愛される石黒さんのことから、自信をもって、自分で焼いたパンを、自分で売る日が来るのも、そう遠くはないかもしれません。



「いつも緊張してしまう」という社長さんと一緒に

Office 14

日清オイリオ・ビジネススタッフ (株)

とよはら ひさし
豊原 久志さん

平成19年度 港南台ひの特別支援学校卒業

業 種 日清オイリオグループ横浜磯子
事業場内建物内外の日常清掃等
(日清オイリオグループ株式会
社の特例子会社)

所在地 横浜市磯子区新森町1

従業員数 16名
(うち知的障害者11名)

ビジネススタッフの事務所がある本館棟



日清オイリオ・ビジネススタッフ (株) は、日清オイリオグループ (株) の特例子会社で、広大な日清オイリオグループ横浜磯子事業場の本館棟の中に事務所を構えています。

豊原さんをはじめとする日清オイリオ・ビジネススタッフの社員たちは、この事務所を拠点に、本館棟や食品工場内の様々な部屋の清掃業務を行っています。

日清オイリオ・ビジネススタッフの社員育成

日清オイリオ・ビジネススタッフは、障害者の雇用を目的とした特例子会社として、2004年3月に設立されました。

代表取締役の内田さんは、社員を企業の戦力としていくために必要なこととして、(1) 目標を作り実行していくこと。

(2) 個人作業と共同作業を取り入れ、コミュニケーションや助け合うことの大切さを知ってもらうこと。(3) 社員ひとりひとりの個性に個別に対応すること。という3点をあげています。そして、社員に毎日必ず書いてもらう作業日誌を通じて、社員ひとりひとりにこれらのことを確認してもらうとともに、社員の気持ちを把握することに努めているそうです。

日清オイリオ・ビジネススタッフでは、設立以来これらの取組を着実にやってきたこともあり、現在では、障害者を雇用する上での様々なノウハウが蓄積され、円滑に業務を進めることが可能になっているそうです。

また内田さんは、「このような社員育成のスタイルを着実に社員に浸透させるためには、毎日現場で社員と接する指導員の存在が非常に大切です」と言います。現在、日清オイリオ・ビジネススタッフには、母親役となって、社員ひとりひとりの気持ちに寄り添いながら指導に当たる指導員がおり、社員は皆自信をもって豊かな気持ちで仕事に取り組んでいるとのことでした。

職場での豊原さん

豊原さんは、初対面などで緊張していると、なかなか言葉が出てこない面があるようです。しかし、本当の豊原さんがとても明るくて快活だと言うことを、豊原さんと接する周りの方たちは、みんな知っています。社長の内田さんは言います。「しかも彼は、すごく優しく、しかも抜群に物覚えがいいんです」。

この会社では、二人一組で清掃業務を行うことが多いようですが、豊原さんは自分の持ち場の清掃を早く終わると、必ず自分から「手伝います!」と言って、相方の手伝いをするそうです。また、日清オイリオ・ビジネススタッフが清掃を請け負っている場所は、会議室、トイレ、食堂、更衣室等多岐に渡り、全部で100カ所を超えています。豊原さんはそれらの場所や、それぞれの場所での清掃器具・清掃方法について、すべて記憶をしているそうです。

取材の日、豊原さんは本館棟の男子便所の清掃を行っていましたが、その集中力と機敏な動きには目を見張るものがありました。

* * * * *

内田さんは言います。「企業が、社員のやった仕事に対して達成感と誇りを持たせてあげると、彼らは自信を持ちます。するといつの間にか自分の気持ちや考えを表現してくれるようになり、豊かなコミュニケーションがとれるようになります」。

日清オイリオ・ビジネススタッフは、豊原さんの持つ優しさや能力を、見事に開花させているようです。



テキパキと便器を洗浄する豊原さん